

木次中学校建設事業 木次中学校整備設計業務 公募型プロポーザル審査講評

木次中学校整備設計業務に関する公募型プロポーザルについて、設計候補者選定評価基準に基づき厳正に審査した結果、下記のとおり設計候補者の選定をしたので、次のとおり講評します。

1. 審査経過

本業務は、新たな木次中学校の校舎を整備するにあたり、木次中学校整備基本計画等を踏まえて基本設計及び実施設計を行うものであり、本業務に最も適した設計者を選定するため公募型プロポーザルを実施しました。

公募により参加表明のあった３者について、事務局で審査を行い、技術提案書提出者３者を選定しました。技術提案書については、選定された３者から提出があり、プレゼンテーション及びヒアリングを実施しました。その後、選定委員会で慎重に審査を行い、最優秀設計者及び優秀設計者を選定しました。

2. 審査結果

最優秀設計者	環境計画建築研究所・教育施設研究所設計共同企業体
優秀設計者	北脇・安藤設計共同企業体

3. 審査講評

今回のプロポーザルでは、設計者の業務遂行能力や技術力、業務の遂行に関する事項、特に重視する設計上の配慮事項として「①立地条件を考慮した敷地利用に関する考え方」、「②新しい時代の学びを促進し、社会で生きる力を育む空間づくりに関する考え方」、「③ライフサイクルコストと環境負荷の低減に関する考え方」、「④基本計画等に記載のない事項に関する独自提案」の４つのテーマについて慎重に審査を行いました。

いずれの事業者も業務遂行能力と技術力を有しており、基本計画を理解された上で各テーマに対して業務の特性に配慮された独自性のある特徴的な提案内容でした。また、プレゼンテーション及びヒアリングについても、丁寧な発表及び質疑に対して的確かつ誠意をもって回答していただきました。

この度の技術提案は、今後の業務に活かされる大変有意義なものであり、本プロポーザルに参加された事業者の皆様にご心から感謝いたします。

最優秀設計者及び優秀設計者の提案については、立地条件と居住環境整備に関する考え方において、南北の周辺環境に配慮した建物配置と居住空間の計画、学校全体での多様な学びの場の考え方が高く評価されました。

その中で、優秀設計者については、木材を活用し環境に配慮した建物提案が特に評価され、最優秀設計者については、今後設計を進める中での関係者との連携や合意形成の具体性と事業費縮減や課題解決への提案もあり特に評価されました。

審査については、設計者の業務遂行能力や技術力と技術提案を含め総合的に審査を行い、上記の結果に至りました。

今後、選定された設計者と関係者との連携により、雲南市の“人づくり”を実現する木次中学校が整備されることを祈念いたします。

令和８年７月１７日

木次中学校整備設計候補者選定委員会
委員長 細田 智久